

新庁舎に関する疑問にお答えします

Q なぜ、建て替えが必要？

A 現在の庁舎は、建設から約50年となり、コンクリートの劣化など建物の老朽化が進んでいます。さらに、庁舎の分散により、市民の皆さんにとって不便であること、来客用駐車場が分散して使いにくいこと、防災機能が不十分であること、執務空間が狭いことなどの問題があります。

これら現在の庁舎が抱えている問題を解消し、防災機能の充実、市民サービスの向上などを図るため、より機能的な庁舎を建設する必要があると判断したものです。

Q すでに耐震補強工事を行っているのでは？

A 本庁舎は、中越沖地震後の平成21年度に約2億7千万円を掛けて、耐震補強工事を実施し

ました。この補強工事は、災害に備え、当面約10～15年間の使用に耐えられる、必要最小限の措置を施したものです。このことよって、老朽化している建物の寿命が延びるわけではないので、建て替えが必要であることに変わりはありません。

Q 災害への対応は？

A 昭和53年の豪雨災害後に行った河川激甚災害対策特別緊急事業による鵜川の大規模改修、さらに、塩込川や浜屋川の内水対策として行った柏崎雨水ポンプ場の完成により、柏崎駅周辺で、その後、浸水は起きていません。

平成17年6月の水害時には、昭和53年の水害時の2倍以上の降雨がありました。柏崎駅周辺での浸水被害はありませんでした。

また、平成36年竣工予定の鵜川ダムの完成によって、鵜川の

治水対策がさらに強化され、100年に1回程度の降雨にも対応でき、よほどのことがない限り、浸水の心配はないものと考えています。

なお、新潟県の調査報告書に基づき市が作成した津波ハザードマップでは、津波による浸水は想定されていません。

万一の際を考え、念のため、警戒が必要な区域として指定しています。

Q 市の財政は大丈夫？

A 柏崎市の財政状況は、中越沖地震の災害復旧・復興事業に多額の財源を充当したことから、一時的に厳しい状況になりました。しかし、その後、経常経費の縮減や借入金（市債）の繰り上げ償還、歳入の確保に努めてきた結果、財政状況も確実に良くなっています。

また、借入金もその額を極力抑制しながら、財政運営をして



きていることから、借入金残額は年々減少しています。

さらに、一般家庭の貯金に相当する財政調整基金も、平成26年度末には約47億円を確保しています。この額は中越沖地震前の2倍以上となっております。

なお、この先、社会保障経費や老朽化した公共施設の維持管理経費など、財政需要の増加がさらに見込まれます。したがって引き続き、行政経営プランを確実に実行しながら健全な財政運営を進め、着実な行政サービスを展開していきたいと考えています。

Q まちづくりの方向性は
どうなるの？現庁舎は？

A 今年度に引き続いて平成28年度も、現庁舎跡地の利活用を含めた中心市街地の在り方について、さらに調査・検討を行います。

今後のまちづくりの方向性を考える上で、現庁舎の跡地は、大事な場所であり、十分な検討を行う必要があると考えています。

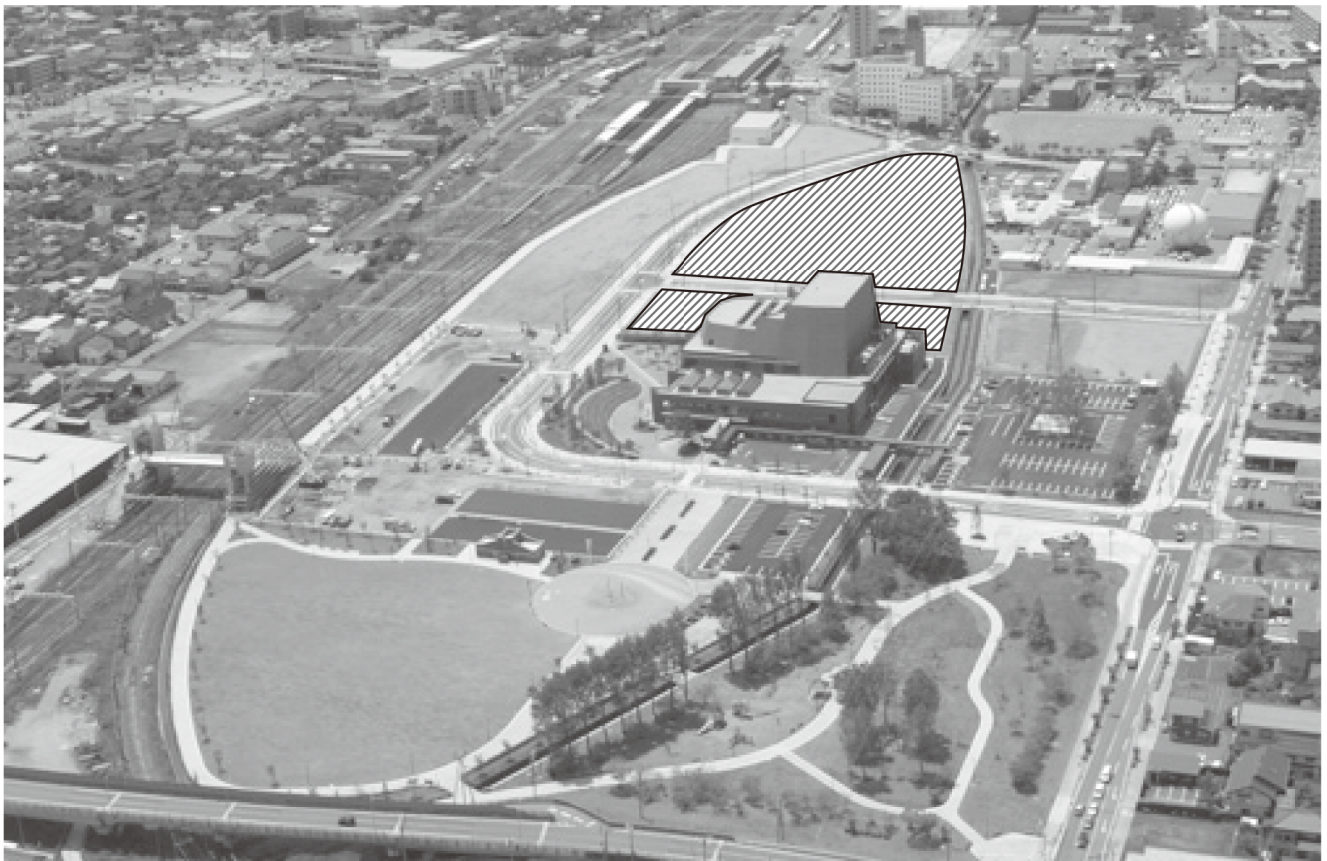
ご意見を
お寄せください

新庁舎整備室



● 新庁舎整備室

☎41・5173 FAX 23・5116



▲新庁舎建設予定地（平成24年6月撮影）